

マングローブ再生と持続可能な利用の推進のためのワークショップ

1. 趣 旨

SDGs 達成と生物多様性主流化のためのパートナーシップ

第 13 回生物多様性条約締約国会議（2016 年・カンクン）閣僚級会合において、農林水産業、観光業への生物多様性主流化のためのカンクン宣言が合意されました。JICA はこれまで保護区の保全と周辺地域におけるグリーン経済推進と地域住民の生計向上に取り組んできました。グリーン経済を効果的に推進するためには生産物の品質向上と付加価値化、市場開発が必要であり、企業との連携が不可欠となります。一方、企業においては、近年、CSR 活動だけでなく、「社会や環境を意識した投資が企業の持続的な成長に繋がる」という ESG 投資の普及により、原材料調達国のサプライチェーンにおける生物多様性の保全と持続可能な利用に対する意識が高まっています。しかしながら、企業が現場でこのような取組みを実施するためには、科学技術的知見と人材育成の観点から専門家や NGO との連携が必要となります。そこで、JICA では、企業、NGO を含む関係者がそれぞれの事業実施課題を補い合い、生物多様性の保全と持続可能な利用を推進するためのパートナーシップ事業を開始することとしました。この連携事業は SDGs において、生物多様性関連目標だけでなく、貧困削減やグローバル・パートナーシップを含む目標への貢献を目指しています。

マングローブ再生とエビ養殖を含む持続可能な利用の推進

マングローブは漁業資源を供給し、海岸浸食を防ぎ、津波や台風の高波を弱め自然災害リスクを低減化してくれます。また、マングローブが土壤中に貯留する炭素量は陸域森林に比べはるかに高く、気候変動緩和に大きく貢献していることが近年明らかになってきました。このようにマングローブは人々に多面的便益をもたらすにも関わらず、世界中で急速に減少しています。1980 年に全世界で 1,880 万 ha あったマングローブは 25 年後の 2005 年には 1,520 万 ha と 20%が減少しました。このまま減少すると、沿岸域住民はこれら便益を享受できなくなり、漁業資源の枯渇、気候変動に起因する海面上昇や大型台風襲来などの災害リスクにより生活が脅かされることとなります。マングローブ減少の主要要因は集約型エビ養殖池造成による伐採であり、マングローブ再生と持続可能なエビ養殖への転換が緊急課題となっています。養殖エビの輸入国中、わが国の輸入量は世界 5 番目で、約 15 万 3 千トンを主にアジア諸国から輸入しています (FAO 2019)。したがって、わが国の養殖エビ消費がマングローブ減少に与える影響は大きく、マングローブ保全に配慮したエビ養殖などの持続可能な利用の推進を積極的に支援する責務があると言えます。

エビ養殖に関わる一部企業では既にマングローブ再植林と持続可能な養殖に取り組んでいます。また CSR 活動としてマングローブ植林を支援する企業も数多く見られます。これら企業と関係者が連携することで、より効果的なマングローブ保全と持続可能な利用が可能となります。

本ワークショップでは、マングローブの再生とエビ養殖など持続可能な利用推進のため、関係者の取り組みとその課題について情報共有、意見交換を通じて理解を深め、植林や養殖の技術改善、市場展開、地域住民生計向上、連携形成に向けた体制構築などの検討を行います。

2. 日程及び会場

日 程： 8月1日（木）9時30分～12時35分

会 場： JICA 地球ひろば 2階 国際会議場
東京都新宿区市谷本村町 10-5 (JICA 市ヶ谷ビル内)
<https://www.jica.go.jp/hiroba/about/map/index.html>



3. 実施体制

【主 催】 独立行政法人国際協力機構

【協 力】 公益財団法人国際緑化推進センター

4. プログラム

9:00 – 9:30	受付
9:30 - 9:35	開会あいさつ
9:35 - 10:25	基調講演 藤田 香 氏（日経 ESG 経営フォーラム・プロデューサー）
10:25 – 10:35	ワークショップ趣旨説明
10:35 – 10:50	休 憩
マングローブ再生と持続可能なエビ養殖等の取り組み事例紹介	
10:50 – 11:05	北カリマンタン・タラカンにおけるマングローブ植林と持続可能なエビ養殖 株式会社ニチレイフレッシュ・公益財団法人 WWF ジャパン
11:05 – 11:20	南スマトラにおける Silvo-Fishery による持続可能なエビ養殖事業 ワイエルフォレスト株式会社・公益財団法人国際緑化推進センター
11:20 – 11:30	インドネシアにおける持続可能なエビ養殖とエコシュリンプの輸入・販売 株式会社オルター・トレード・ジャパン
11:30 – 11:45	企業の CSR 活動とマングローブ植林の取り組み 東京海上日動火災保険株式会社・公益財団法人オイスカ
11:45 – 11:55	マングローブの再生技術と管理 特定非営利活動法人国際マングローブ生態系協会
11:55 – 12:00	準 備
12:00 – 12:30	パネルディスカッション
12:30 – 12:35	閉会あいさつ

5. 申し込み方法

要事前申込み： 定員 150 名（先着順）

申込み先： JICA 地球環境部森林・自然環境グループ 支援ユニット jicage-nature@jica.go.jp

必要記入事項： 氏名、ふりがな、所属、連絡先（メールアドレス）

締め切り： 2019 年 7 月 26 日（金）17 時 00 分まで